

排泄ケア関連のイメージとニーズ

— 一般の人々とケアの専門家との比較 —

佐々木奈緒¹, 宮村 裕之², 田中 早苗², 吉田 和枝³, 林 智世⁴, 高植 幸子⁵

Key Words: image for elimination care, need for elimination care, general people, caregivers

I. はじめに

高齢社会となって、近年、医療福祉関連施設や事業所に関するニュースは社会問題として取り扱われることが多く社会のケアに関する注目度は高い。さらに、生涯を通じてのQOLが社会的な関心となった現在、排泄ケアはその他のケアと同様、より当事者の個別的な身体機能に合致したかつ満足度の高いケアを求められている。これに加え、排尿に関する一般薬の流通や失禁ケア用のパッドの流通など、数年前ではめづらしかった排泄に関する用品が、今や大々的に商業販売されている状況である。

このような中で、人々の排泄ケアや排泄ケア用品に関するイメージやニーズは大きく変化しているのではないだろうか。ケアの専門家は、日ごろこのような社会的変化について熟考することなく、従来通り様々な場で一般の人々に対して排泄ケアを行ったり、ケア用品を使ってケア方法を説明したりしている。一般の人々とケアの専門家の排泄ケアに関連するイメージやニーズが異なることによって、ケアを提供している専門家が、ケアを受ける人々の納得や満足感を満たさない状態で、それに気づくことなくケアを継続している可能性があるのではないだろうか¹⁾。排泄ケアに関するイメージやニーズを家族と専門家が共有し適切に支援することは、家族のケアの満足度を上げるために必要である²⁾。

残念ながら、排泄ケアに関するイメージやニーズの研究はあまり見受けられない。特に、排泄ケアの重要

な用具であるオムツやパッドは、それを使用している当事者やその家族にとっては、QOLを支える重要なケア用品であるので、一般の人々とケアの専門家のイメージやニーズがどのように違うのかを明確にすることは、意義深いと考えた。

II. 研究目的

一般の人々とケアの専門家との間で、排泄ケアに関連したイメージやオムツ・パッドに関するニーズがどのように異なっているのかを明らかにする。

III. 研究方法

1. 調査対象者

三重県内で開催された排泄ケアに関する講習会や勉強会で、主催者の協力の得られた会に出席していた参加者のうち、調査に同意の得られた56名。

2. 調査期間

2006年8月～10月

3. 調査方法

講習会や勉強会の終了後、調査の目的や方法、結果の取り扱いについて口頭で説明し、協力を依頼した。無記名であること、調査の協力の有無は今後のケアや職務に全く影響しないことなど、倫理的配慮についても同時に口頭で説明した。調査票をその場で配布し、アンケート回収箱に直接入れてもらうことで、調査の同意を得たものと判断した。

1 大王製紙株式会社 ホーム&パーソナルケア事業部
2 社会福祉法人ウェルケア 津橋北デイサービスセンター サポート
3 三重大学医学部看護学科
4 三重大学医学部附属病院医療福祉支援センター
5 みえ排泄ケアネット

調査票は、回答者の背景として、性別、大まかな年齢、勤務先種類、職種、排泄ケアに携わった経験年数、講習会や勉強会に参加したきっかけや目的についての7項目、排泄ケアならびに紙おむつのイメージについて2項目、おむつ会社への質問1項目、排泄ケアで困っていることや取り組んでいること2項目、おむつやパッドに対する要望9項目、合計21項目で構成されている。回答方法は、回答者の背景については選択式（ただし、排泄ケアに携わった経験年数は実年数）、その他の項目は自由記載とした。

4. 分析方法

一般の参加者とケアを専門とする仕事についている人（以降、専門職という）に群分けし、両群を比較しながら質的に記載内容を分析した。

IV. 結果

1. 対象者の背景

対象者の背景を表1に示す。対象者は、一般37名（女性35名、男性2名）、専門家19名（女性18名、男性1名）で、どちらの群もほとんどが女性であった。一般の参加者では60代と70代が多く全体の65%を占めており、専門家は、20~40代が中心で全体の80%程度を占めていた。排泄ケアの実践経験の平均年数は、一般で5.1±5.5年、専門家で5.7±7.5年であった。専門家の職種は、介護職16名（84%）、看護職3名（16%）で、デイサービス勤務が15名（79%）、病院が3名（16%）であった。

「参加のきっかけ」を表2に、「会に参加して知りたいこと」を表3に示した。一般の参加者は、地域の役柄や知り合いの勧め、地域団体の勧めなどたまたま生じたきっかけもあるが、多くは、夫や妻、親を介護しているという差し迫った現実や、将来的に自分や家族が必要になるといった当事者意識がきっかけとなっているにもかかわらず、会に出席して知りたいことは「どんなことでも知りたい」というような漠然としたニーズでしか表現されなかった。一方、専門家は、職務上の必要性や自分のスキルアップがきっかけになっていることが多く、知りたいことは排泄に関する身体的な知識であったり活動の場に応じた排泄ケアの方法であったり、排泄ケアに関する具体的な内容が回答されていた。

2. 排泄ケアのイメージ

排泄ケアのイメージを表4に示す。排泄ケアのイメージに対する一般の回答は、「必要なこと」、「どうにかすること」、「要領があること」の3つのみで、目の前にある生活上の現実そのものであった。一方、専門家のイメージは、「個別的援助」や「羞恥心のケア」「不安を安心に変えること」「要介護者のQOLを左右する大切なもの」など、ケアを概念化した言葉であったり、「汚い」、「臭い」といった一般の感覚を想定して記述されていた。

3. 紙おむつのイメージ

紙おむつのイメージを表5に示す。紙おむつのイメージは、一般と専門家とでは異なる様相をしていた。一

表1 対象者の背景

		一 般	専 門 家	総 数
人 数	総数 (人)	37	19	56
	女性 (人)	35 (95%)	18 (95%)	53
	男性 (人)	2 (5%)	1 (5%)	3
年 齢	20代		4 (21%)	4
	30代	1 (3%)	6 (32%)	7
	40代	1 (3%)	5 (26%)	6
	50代	6 (16%)	3 (16%)	9
	60代	13 (35%)	1 (5%)	14
	70代	11 (30%)		11
	80代	5 (13%)		5
排泄ケアの実戦経験年数 (年)		5.1 (±5.5)	5.7 (±7.5)	
範 囲 (年)		0-18	0-27	
職 種	介護職 (人)		16 (84%)	
	看護職 (人)		3 (16%)	
勤 務 先	病 院 (人)		3 (16%)	
	デイサービス (人)		15 (79%)	
	その他 (人)		1 (5%)	

表2 講習会や学習会参加のきっかけ

	一 般	専 門 家
差し迫った現実から	<ul style="list-style-type: none"> 在宅介護のため 義母が寝たきり 母の介護, 老いた母がいるので 親が排泄に違和感を生じてきたので 夫の介護, 夫が寝たきり 夫ががんになったので 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が排泄用具を使っているので 施設で専門の人がいない
過去の経験から	<ul style="list-style-type: none"> 以前, 祖母を介護していた 義母の介護で無力だったので 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりにまとめたい
将来のために	<ul style="list-style-type: none"> いざというときのため これから必要なので 	
職務・役柄上の必要性から	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員だから ヘルパー教室に行っているのでは 	<ul style="list-style-type: none"> 介護職なので 教育プログラムに組み込まれているので 職場の薦め 今まで参加しているのでは
たまたま知ったので	<ul style="list-style-type: none"> 知り合いの薦め 社協の案内 市のちらし 介護教室のちらし 新聞で 	<ul style="list-style-type: none"> 知り合いの薦め

表3 知りたいこと

	一 般	専 門 家
身体的な知識	<ul style="list-style-type: none"> 排便について 	<ul style="list-style-type: none"> 排泄ケアの生理学 排泄のしくみややり方
技術的なこと	<ul style="list-style-type: none"> 製品案内, 使い方紹介 身体の向きの変え方 	<ul style="list-style-type: none"> まだ知らない技術 排泄ケアの個別化について 在宅での排泄ケアの方法
ストレス対処	<ul style="list-style-type: none"> する方もされる方も安心してストレスにならないようにする方法 	
排泄に関わらず知りたい	<ul style="list-style-type: none"> 食事, 移動, 移乗, 起居, コミュニケーションなど どんなことでも知りたい 	<ul style="list-style-type: none"> 現場の状況を知りたい みんなが困っていることとその対処法

表4 排泄ケアのイメージ

	一 般	専 門 家
身体にとって必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> 必要なこと 	<ul style="list-style-type: none"> 必要なもの なくてはならないもの
日常の中でどうにかすること	<ul style="list-style-type: none"> どうにかすること 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の業務で重要なもの たいへん
学習可能なもの	<ul style="list-style-type: none"> 要領がある 	<ul style="list-style-type: none"> 勉強するとわかる
個別性の高い援助		<ul style="list-style-type: none"> 個人によって違う 個別援助
羞恥心を伴う援助		<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で最もプライベートな行為 羞恥心のケア 恥ずかしい状況の中の援助
排泄物の特徴		<ul style="list-style-type: none"> 一般的には汚いと思われている 一般的には臭いと思われている
QOL への援助		<ul style="list-style-type: none"> 排泄機能の低下した方々の不安を安心に変えること 要介護高齢者の QOL を左右するとても大切なもの

表5 紙おむつのイメージ

	一 般	専 門 家
便 利	<ul style="list-style-type: none"> ・便利になった, たいへん便利 ・フラットタイプがいろいろ便利に使えて良い ・使いやすくなっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・便利だ ・洗濯などの手間が省ける
助けられている	<ul style="list-style-type: none"> ・助けてもらっている ・自分が疲れないようにする ・あって助かる 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙おむつに頼りすぎ
良いもの	<ul style="list-style-type: none"> ・良いもの 	
必要なもの		<ul style="list-style-type: none"> ・生きていくために必要なもの
もたらされる効果		<ul style="list-style-type: none"> ・転倒予防 ・安心感
もたらされる弊害	<ul style="list-style-type: none"> ・現状でよいのかな 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙おむつは自立から遠のく ・慣れると怖い ・最終手段
感 触	<ul style="list-style-type: none"> ・昔のものより気持ちが良い ・こそぐったい ・暑い ・皮膚への違和感 	<ul style="list-style-type: none"> ・むれる ・ごわつく ・特に夏は暑苦しい
多様性	<ul style="list-style-type: none"> ・選ぶときにコツがある ・いろいろあって選ぶのが大変 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなタイプがある
使用者のイメージ		<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃん ・寝たきり
経済性	<ul style="list-style-type: none"> ・値段が安い 	
環 境		<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミが増える

般の回答は、「良いもの」に象徴されるように、紙おむつの「便利さ」や「自分が疲れないようにする」「あって助かる」など「助けられている」といった肯定的なイメージで表現されていた。一方、専門家は、もたらされる効果として「転倒防止」や「安心感」などの二次的な効果についてもイメージしていた。また「便利」ではあるが、「頼りすぎ」や「慣れると怖い」「自立から遠のく」などのおむつの弊害のイメージや「赤ちゃん」「寝たきり」などおむつを使う人のイメージを記述していた。両群で共通したイメージとして、おむつの皮膚感触があげられた。

4. おむつ会社に訊きたいこと

おむつ会社に訊きたいことを表6に示す。この問いかけに対して両群とも、企業に対する要望を回答していた。一般では、病院や施設でおむつ適応でない人がおむつをあてられていることから、「必要な人にだけ使われる」しくみを要望していた。専門家は、商品の改良の要望を中心に、販売方法や環境への影響についての企業責任への要望が記述されていた。両群とも販売価格について、さらに安価な提供を希望する回答が

あった。

5. 排泄ケアで困っていること

排泄ケアで困っていることを表7に示す。一般の回答では、「寝たきりの対応」や「おむつを変える時」に困っていたり、「要介護者の体重の増加」などによる「肩がこったり、疲れたりする」といった援助者の身体的負担が挙げられた。専門家からは、「人的問題から満足に利用者に応えられない」現状や、「大量の下痢便」「おむつを捨てさせない要介護者」など、個別的な対応に苦慮している様子がうかがえた。

6. 排泄ケアについて取り組んでいること

排泄ケアについて取り組んでいることを表8に示す。一般では、排泄動作に適した援助をしようと「できるだけポータブルにしたい」と思っているが疲れるので現実的にはあまりできないこと、「ドライヤーで皮膚を乾燥させている」といったスキンケアへの努力、「勉強会」に参加して少しでもケアを良くしようという心がけが記述されていた。専門家では、「排泄チェック表」を使うなどして「当事者の排泄パターン」を尊

表6 おむつ会社に訊きたいこと

	一 般	専 門 家
使用方法		<ul style="list-style-type: none"> 尿漏れを防ぐ効率的な方法
商品の改良		<ul style="list-style-type: none"> 病状により使い分けられる通気性の良いものが欲しい 予防のためパンツやパッドを使うと接触性皮膚炎になる。更に考慮を むれが気になるので薄くて着脱のしやすいものを 子供用のようにもっとかわいいデザインのものが欲しい
販売方法	<ul style="list-style-type: none"> 病院や施設で使われなくても良い人がオムツになっている。必要なヒトにだけ使われるようにして欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> 同じタイプのパッドでもメーカーによって吸収量が違うので比較できるデータが欲しい 扱っている商品について知りたい
販売価格	<ul style="list-style-type: none"> とても便利だが、もっと安くなると良い 補助で助かっている 	<ul style="list-style-type: none"> 値段をもっと安く
環境への影響		<ul style="list-style-type: none"> 原材料をどこから仕入れ、地球環境にどういったダメージがあるのか

表7 排泄ケアで困っていること

	一 般	専 門 家
援助者の負担	肩がこったり、疲れたりする	
援助者の人的問題		<ul style="list-style-type: none"> 人的問題から満足に利用者に応えられない
排泄物の漏れ	<ul style="list-style-type: none"> おむつの横から漏れる 	<ul style="list-style-type: none"> 便意を訴えられない下剤服用者の大量便に対応できず、汚染する
おむつの使用方法	<ul style="list-style-type: none"> オムツを替えるとき 寝たきりの対応のコツ 排便後手が汚れるので何とかしたい 	<ul style="list-style-type: none"> 上手にあてられるか
要介護者に起因すること	<ul style="list-style-type: none"> 要介護者が重くなっていたいへん 	<ul style="list-style-type: none"> パンツタイプやパッドを汚れていても捨てようとしない方がみえる。もったいないと思っておられる様子

表8 排泄ケアについて取り組んでいること

	一 般	専 門 家
要介護者の排泄のパターンの尊重		<ul style="list-style-type: none"> 排泄パターンを掴んだケア 排泄チェック表の活用 利用者のリズムに合わせて介助している
排泄動作能力に見合う排泄方法の選択	<ul style="list-style-type: none"> できるだけポータブにしたいと思っているが疲れるので… 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な誘導
スキンケア	<ul style="list-style-type: none"> 身体を拭いた後、ドライヤーをかけている 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の陰部洗浄
排泄機能に対する援助		<ul style="list-style-type: none"> 水分摂取を勧める
環境創り		<ul style="list-style-type: none"> 尿意や便意を聞き漏らさないで対処できる環境づくり
介護者の学習	勉強会に行っている	

重したケアに取り組んだり、「便意や尿意を聞き漏らさない環境作り」や「定期的な誘導」を行うなどして、トイレでの排泄を促す努力がなされている。また、「陰部洗浄」による保清や「水分摂取の促し」など、身体機能を維持するための予防的な取り組みも記述されていた。

7. 紙おむつやパッドに求めるもの

1) テープ止めタイプ

テープ止めタイプに求めるものを表9に示す。一般では、「寝たきりなのでやりやすいもの」「夜間用の分

厚いもの」が、専門家からは「腹水など腹囲の大きい人の大きなおむつ幅のもの」、「よく動く人用に、テープ位置をM用、L用を1つのおむつにつけて欲しい」「立位でつけられるおむつ」など、対象者の様々な状況に合致するおむつの要望が記載されていた。

2) パンツタイプ

パンツタイプに求めるものを表10に示す。パンツタイプは最も要望が多かった。両群で共通して要望されていた内容は、「もっとおしゃれな模様のもの」「外からわからない薄いもの」「通気性の良いもの」であった。一般からは、「特大サイズ」の要望が記述されて

表9 テープ止めタイプに求めるもの

	一 般	専 門 家
おむつの幅		・腹水などの腹囲の大きい人用の大きなオムツ幅のもの
テープの位置		・よく動く人用に、テープの位置をL用M用で一つのおむつにつける
装着のしやすさ	・寝たきりなのでやりやすいもの	・リハパンツでは難しく、寝たきりでもない人用に、立位で簡単に装着できるものが欲しい ・立ったままオムツがつけられるもの
吸収量	・夜間用にもっと分厚いものはないか	

表10. パンツタイプに求めるもの

	一 般	専 門 家
デザイン（模様）性	・くしゃみのとき漏れるので、40代50代で使えるおしゃれなパンツ	・模様があったり、きれいな色のもの。女性におしゃれ心を持ち続けて欲しい
装着後の外観の良さ	・外からなるべくわからないようにしたいから、もう少し薄くなれば良い	・健康な人でも遠出の時に使えるよう、もっと薄手で吸収力のあるもの ・吸収力があって薄いもの。布パンツに近いもの ・あまり分厚くないタイプ
装着のしやすさ	・特大サイズが欲しい	・介護者がはかせやすいタイプ ・パンツの下に穴が開いていて、尿失禁の時には手軽に変えられるもの ・トイレ交換できるよう、膝下まで脱ぐだけでパンツが交換できる商品が欲しい ・自分ではく方のため、パンツの前後が高齢者でもわかりやすい工夫をして欲しい ・1.2.3ではけるパンツ。片麻痺の人ははきにくい。取っ手があると良い
安全性		・肌が湿っているときは、リハパンツが上がりやすく、立位の不安定な方はバランスを崩しやすい。安全な装着のため、吸収部位以外は摩擦の少ない素材にして欲しい
通気性	夏は暑いとよく言う	・通気性の良いもの
経済性		・パンツタイプは高い

いた。専門家からは、「介護者がはかせやすいもの」で、「膝下まで脱げば交換できるもの」「パンツの下に穴が空いているもの」などが、また「当事者が自分ではきやすいもの」で「取ってのあるもの」「パンツの前後が高齢者にもわかるもの」「濡れた皮膚でも上げるときに滑りの良い材質のもの」など、当事者にとっても援助者にとっても使いやすく安全な商品が欲しいという要望が挙げられていた。また、パンツタイプは他のタイプに比べて割高な感じが指摘されていた。

3) パッド

パッドに求めるものを表 11 に示す。一般からは、「生理ナプキンのように大中小のタイプがあるといい」、「ポータブルに座ったときに当てやすいもの」が希望されていた。専門家からは、「薄くても吸収量の多いもの」「男性用のパッドの改良」、「お尻に貼れる排便専用パッド」「ずれないパッド」など特化した商品の要望があげられた。

V. 考 察

一般の人々とケアの専門家との間で、排泄ケアに関連するイメージやオムツ・パッドに関するニーズがどのように異なっているのかを明らかにすることを目的に本研究を行った。

1. 対象者の背景について

今回の一般の対象者は、高齢者が全体の 3/4 を占めており、ご自宅で実際にケアをしている方々が多かった。そのため、介護経験のない若年層よりも実際の排泄ケアをイメージしやすかったと考えられる。また、おむつやパッドに対するニーズも日頃のケアから思うところがあるのではないかと考えられた。一方、ケアの専門家は、年数としては 0 年であるがケアの現場を全員が経験しており、

排泄ケアに関連するイメージや、おむつやパッドに関するニーズも明確にもっていると考えられた。また、専門家の協力者のほとんどが、デイサービスに勤務しており、在宅療養中の方やそのご家族と日頃から接しているため、病院や施設に勤務しているケアの専門家よりも、イメージやニーズが一般の方と共通しやすいと考えられた。そのため、それでも生じているイメージやニーズの違いがどのようなものなのかを検討できる、非常に良い機会であると考えられた。

2. 排泄ケアに関連したイメージについての違い

「排泄ケア」のイメージに対する一般の回答は、目の前にある生活上の現実そのものであった。一方、専門家のイメージは、ケアを概念化した言葉や感覚を伴う言葉で表現されていた。

自宅で排泄ケアを行う場合、西村³⁾がいうように 24 時間、本人のペースで、特定の援助者が実施することは、援助者にとっては非常に重い負担である。援助者はいつも要介護者の排泄を気にしながら生活していると言っても過言ではあるまい。排泄ケアをイメージすることは、すなわち言語で表現すれば、排泄物にかぎらず様々な生活上のことを「どうにかすること」であることは、十分納得がいく⁴⁾。専門家は、教育を受けて専門家として実践の場に立つ。従って、排泄ケアのイメージはまずは教育によって造られ、次いでそれを基盤にして日頃の自らの実践によって訓練した結果、新たなイメージとして定着する。「個別的援助」や「羞恥心のケア」「不安を安心に変えること」「要介護者の QOL を左右する大切なもの」などの回答は、いかにも訓練された専門家らしい回答であり、言葉の表現の違いはあっても内容については専門家間で大きな違いは認められなかった。また、「汚い」「臭い」といった感覚的な言葉は、一般的にはこのように思われがち

表 11. パッドに求めるもの

	一 般	専 門 家
サイズ表記	・生理用ナプキンのように大中小のタイプがあるといい	
吸収量		・薄くても尿の吸収量の多いもの。オムツとパッドのかさねあては厚くなる
男性用の形態		・安価で男子用で袋形があると良い ・ペニスが短い人へこみのあるパッド
排使用の形態		・お尻に貼ることのできる排便専用のパッド
装着のしやすさ	・ポータブルに座らせたとき当てにくい	・吸収力がよく、どんなパンツにつけてもずれないもの。テープではずれやすい
装着感		・軽度尿失禁用のパッドは違和感があるよう

であるが、といったあるべきケアと対極をなす考えとしてステレオタイプに言われることが多い。くしくも「一般的にはそのようにイメージされているだろう」との、専門家による記述があったが、今回の調査では、一般の人々の中でそのようなイメージを表現した回答はなかった。

おむつについてのイメージは、一般と専門家とは異なる様相をしていた。一般の回答は、「良いもの」「あって助かる」などの肯定的なイメージで表現されていたが、専門家は、「便利さ」だけでなく、もたらされる効果として「転倒防止」や「安心感」などの二次的な効果についてもイメージしていた。両群でまったく異なっていたのは、一般の人では皆無であった「おむつの弊害」や「おむつを使う人」のイメージの記載が専門家では多かったことである。一般の人が24時間の排泄ケアの中で、唯一、要介護者の排泄の心配から開放される時は、オムツを交換した直後である。それからしばらくの時間は、自分の生活が可能になることを考えれば、一般の援助者の「助けられ」感は、イメージ化されるほど非常にインパクトのあることだということは想像に難くない。一方、専門家は、おむつの弊害を予防することがケアの中に含まれているので、要介護者に対する自らのおむつを使ったケアを常に評価していることや、複数のスタッフで自分の勤務時間帯のみ排泄ケアを提供することができるため、排泄ケアに対して束縛感がないことも理由にあげられると考える。

排泄ケアに関連するイメージは、一般の人にとっては「どうにかすること」であり、よく使用しているおむつは援助者を「助けてくれる」「良いもの」であった。一方ケアの専門家にとっての排泄ケアのイメージは、「個別援助」であり「羞恥心のケア」であり「とても大切なもの」で、おむつは「便利」なだけでなく「転倒予防」などに効果的なすぐれものであるが、「自立から遠のく」ような「寝たきり」のイメージであった。このように、排泄ケアに関連するイメージが、一般の人と専門家の間で、部分的に共通するものをもちながらも根本的に異なったものであることは、相互理解に大きく影響すると考えられる。

3. 排泄ケアやオムツ・パッドに関するニーズについての違い

排泄ケアのニーズは、一般の人々では要介護者の体重のコントロールであったり、おむつを変えるときに体位変換や手を汚さない交換方法、ADL動作についての援助法であり、援助する側の負担を減らす具体的な方法を知りたいというものであった。一方、専門家

の排泄ケアのニーズは、人員の問題であったり、特殊な状況にある対象者への対応の具体的な方法であった。

おむつやパッドのニーズは、要介護者を抱える一般の人にとって、援助の相手は概ね1人であるので目の前のその人に対しての援助に有効なものであったり、自分の家庭の経済的な条件に合う値段であったりする可能性が高く、必ずしも広く一般的なニーズを意味するものではないと考える。しかし、要介護者に対する日々の直接的な援助を行う立場ではない一般の人であっても、今回の協力者は親族がそのような状況であったり、今は元気であるが老いた親と同居していたり、自分自身が老いることなどによって、相当な当事者意識でおむつやパッドについて考えていると思われた。おむつやパッドに関する要望や必要性は、個人を中心とした生活体験の中で育まれる点では一般化できない内容を含むものの、逆に製品の性能だけでなく、使用方法や適応の徹底、販売方法や値段、おむつ関連業界の製造販売責任や環境保護などに関する様々な幅広いニーズがあるものと推察された。

専門家では、一般同様の幅広いニーズに加え、日々の業務の必要性から、主に製品の機能に対するニーズが高いことがうかがえた。特に今回の協力者の多くが、デイケアサービスに勤務していることから、トイレ排泄が可能であるが援助の必要な方々に多く使用されているパンツタイプのおむつに関する製品の改良を求める記述が多かった。中にはすでに商品化されていると思われるものもあり、商品紹介の大切さや購入者が選択しやすい売り方にも努力が必要と思われた。また、使用者の個別性に合わせて援助者がある程度調整できる工夫を可能にするおむつが必要であることが推察された。

VI. 結 論

一般の人々とケアの専門家との間で、排泄ケアに関連するイメージやオムツ・パッドに関するニーズは次のように異なっていた。

- 排泄ケアに関連するイメージは、一般の人々は「どうにかするもの」といった生活の現実そのものであったのに対し、専門家は、教育を基盤にした「羞恥心のケア」などのケアを概念化したものであった。
- 一般の人々と専門家の排泄ケアに関連するイメージの違いは、教育背景と排泄ケアに関する拘束感などの違いに起因すると考えられた。
- 排泄ケアのニーズは、一般の人々では援助する側の負担を減らす具体的な方法を知りたいというものであったが、専門家の排泄ケアのニーズは、人員の問題の解決や特殊な状況にある対象者への対応の具体

的な方法であった。

- おむつやパッドに関するニーズは、一般の人々では、使用方法や適応の徹底、販売方法や値段、おむつ関連業界の製造販売責任や環境保護などに関する様々な幅広いニーズがあるものと推察された。加えて、専門家は、おむつやパッドの性能のさらなる付加や改良を求めており、その内容は具体的であった。

VII. 研究の限界

本研究は、排泄ケアを実際に行っている人々に多く協力していただきなかったため、一般の人々では高齢の協力者が多くなった。そのため、記述するという方法が適さなかったり、すぐにまとめて書くことを要求したことによって十分回答できなかったりといった、研究方法上の限界があった。

今後は、一般の人々と専門家のイメージの違いがどのようなことを引き起こしているのかを明らかにするとともに、双方のニーズを満たすようなしくみ作りや商品開発につなげていきたい。

謝 辞

本研究を行うにあたり、ご協力いただいた講習会や学習会の主催者の方々、直接、調査票に記入して下さった協力者の方々に深くお礼申し上げます。

引用文献

- 1) 羽賀泰子他：患者・家族の参画による看護ケアの満足度の推移，日本看護学会論文集：成人看護 II（1347-8206）36号 p 208-210, 2005.
- 2) 一海加代子：在宅介護に共通認識を 訪問看護婦からの提案，日本在宅医学会雑誌，4巻1号 p 78, 2002.
- 3) 西村かおる（監）：あなたが始める生活を支える排泄ケア，医学芸術社，2002.
- 4) 福井貞亮：要援護在宅高齢者が感じる日常生活上の困りごとに関連する要因分析 入浴整容，排泄，食事という日常生活上の困りごとに焦点を当てて，ケアマネジメント学，4号 p 79-92, 2005.

キーワード：排泄ケアのイメージ，排泄ケアのニーズ，一般の人々，ケアの専門家